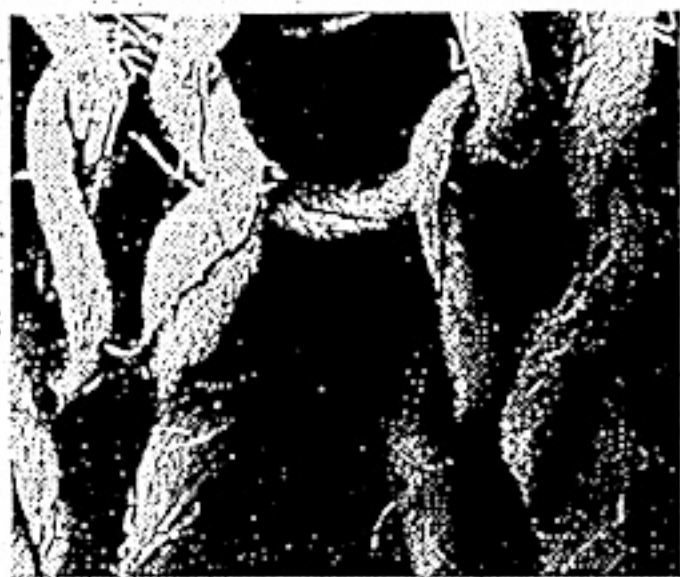


川崎撚糸

水掛け、繊維滑らかに

特許出願 糸ムラなく、強度向上

撚(ねん)糸製造の川崎撚糸(広島県神辺町、川崎信明社長)は糸を複数本合わせてよりを掛ける撚糸工程で、水を掛けて繊維を滑らかにする技術を開発した。水と繊維成分の化学反応を利用するため、強度も高まるといふ。衣料、靴など商品の高品質化に役立てる。和紙製法で作る麻糸でも実用化し、来年中に綿についても導入する計画。



幅1・5ミリのスリットテープの顕微鏡写真

同社が開発した技術「水撚(みずより)」は、和紙状にした麻をカットして作ったスリットテープと呼ばれる幅1・5ミリの糸を、独自方法で数時間水に浸す。この際に繊維成分と水素が結合するため、毛羽が少なくきれいな糸が出来上がる。この糸をよると、通気性や吸水性に優れるジーンズ、ドレス、靴下を製造できるといふ。既に特許を出願した。

同技術は高能率の回転式撚糸機にも対応する。和紙製法で作る麻製品は近年人気が高まっているが、糸ムラが問題になっていた。新技術は結び目を必要としない長い糸を製造でき、撚糸後の糸巻きは従来比約四倍の一キロ程度のもを作れるといふ。

綿への応用についても備後撚糸(同県福山市、光成猛社長)と共同で開発に着手した。和紙製法の麻製品に加え、通常の紡績工程を経て作る綿製品に同技術を用いれば、国内で生産する衣料など

の付加価値を高められ中国産などに対する競争力強化につながる。川崎撚糸は「絹紡績などの短繊維、生糸などから作る長繊維と並ぶ三の繊維として普及したい」(川崎社長)と